

開講科目名 Course	租税法研究演習 1 年（服部先生） / Seminar on Tax Law
時間割コード Course Code	18018
開講所属 Course Offered by	法学研究科修士課程 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2022年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	土 / Sat 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	服部 由美
科目区分 Course Group	研究演習科目
教室 Classroom	4 2 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor （担当教員所属名 Affiliation）	服部 由美（法学研究科修士課程）
授業の目標	受講生に、修士論文を書くに足る基礎学力を養う。
授業の概要	受講生の一人が判例研究をレポートにまとめ、これを基に、受講生全員で検討を加え、討論を行うことを原則とする。
評価方法	出席及び授業への参加姿勢、貢献度等を総合的に勘案して評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	前期は、受講生各自に、租税判例百選の中から判例を2～3つ選んでもらって、判例レポートを作成し、報告してもらう。それを元に、受講生全員でディスカッションを行う。 夏休みには、前期に報告した判例から1つを選んで、小論文を作成してもらう。 後期は、できれば、各自が選んだ修士論文のテーマにそった判例をより深く研究し、発表してもらう。 前期、後期を通じて、2～3回の発表を予定している。
テキスト	租税判例百選 第7版（別冊ジュリスト253号）
参考書	金子宏「租税法第24版」（2021年・弘文堂）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	上記の通り、受講生が作成した判例レポートを元に、受講生全員でディスカッションを行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	原則として、授業中に質疑を行う。 キントンで補う。
フィードバックの方法	キントンで行う。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	判例レポートの発表担当の場合は、約8～10時間。 そうでない場合は、約2時間。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	

SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	